

TA研修会を実施しました！

4月8日、9日の二日間にわたり、環境・情報科学館（MEIPL）においてティーチング・アシスタント（TA）として雇用される予定の大学院生を対象として、「TA研修会」を実施しました。



（苅田副機構長の開会挨拶）

初日の担当講師として本機構山本裕子准教授、二日目は宮下伊吉准教授が、TAとしての基本的な役割や心構え、学修支援と指導のスキルアップなどに関する説明をし、続いてグループ討論などを通じてTAの役割や責任について一層の理解を深めていただきました。

参加した学生からは「多人数で語り合うことで自分でも気づかない新しい着眼点を持つことができた」、「研修会の雰囲気作りがよかった」、「表面的な内容だけでなく本質を考えられるようにグループワークの方が良いと思った」などの意見がありました。



（グループ発表の様子）

本学では、TAの育成を通じ、教育改善、FD推進に継続的に取り組んでいます。また、専門分野で活躍できる優秀な学生を育成するため、計画的かつ積極的な意識改革を行うべく、様々な取組を実行していきます。（教学IR・教育評価開発部門黄文哲、グローバル人材教育開発部門 正路真一）

「食と観光実践」事前学習を実施しました

5月11日（土）に「食と観光実践」の事前学習1回目を実施いたしました。まずはフィールドワーク実施に向けたオリエンテーションと、お互いの顔と名前を覚える自己紹介を行いました。

三重大大学や四日市大学、皇學館大学と普段とは違う学校・学年・専攻の人とコミュニケーションしながら、相互理解を深めていきます。

それに続いて、四日市大学の小林慶太郎教授から四日市とんてきを事例とした「ご当地グルメを活用した"まちおこし"とは？」と題して、食を通じた地域振興に関する講義をしていただきました。

今でこそ有名になった四日市とんてきですが、そこに至るまでの紆余曲折や関係者の努力、活動を継続するための資金調達のやり方など、具体的な説明に多くの学生たちが興味を示していました。

次に、本学山本裕子准教授より問題解決のフレームワークを学ぶワークショップを実施しました。地域における問題とは何か、根本原因を問いかけるフレームワークについて、自己探求的な問題設定から実践的に学ぶワークショップを通じて、思い込みや他人の意見に左右されずにデータや客観的事実に基づいた現状把握ができるような考え方を学びました。

また、各グループにおいてワークショップした内容を相互発表することで、資料作成とプレゼンテーションを練習しました。今後、地域におけるフィールドワークを実施するに当たって重要な考え方、探求型学習の進め方を理解することで、複雑な地域の問題を解決するプロセスを学んでいきます。（地域創発部門（地域創発センター）東大史・織田拓・鈴木幸子）



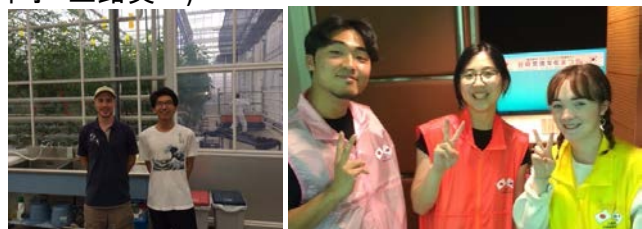
（学生発表の様子）

外国人留学生と日本人学生が インターンシップをしました！

グローバル人材教育開発部門の主催で、今年度の4月から11月までに、28名の外国人留学生と3名の日本人学生が三重県内企業・団体でインターンシップをしました。

農作物の栽培を観察・体験したり、ゲストハウスで宿泊客をもてなしたり、国際交流団体でイベントの運営を手伝ったり、県内の身近な国際交流活動を宣伝したり、子ども達のプログラミング教室の補助をしたりしました。参加した学生からは、「とても楽しかった」「知らなかった世界を体験することができた」「敬語が上手になった」という感想が寄せられました。

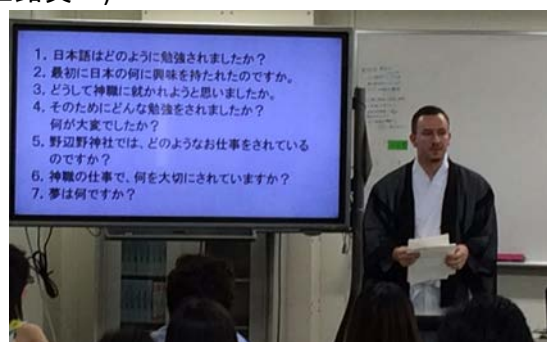
(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(参加者達の笑顔)

オーストリア人神主山中フローリアンさんの講演会を開きました！

グローバル人材教育開発部門と国際交流センターの共催(企画実施:福岡昌子)で、7月22日に、津市久居にある野邊野神社の神主を務められている山中フローリアンさん(出身:オーストリア)をお招きして講演会を開催しました。本学の学生のみならず、市民の皆さんも参加して、山中さんのお話をお聞きました。オーストリア人でありながら日本の神社で神主を務められるに至った経緯や、日本の信仰文化、また日本という国にとっての神社の意味などについて、興味深いお話を非常に流暢な日本語で披露してくださいました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講演会開催の様子)

MEIPLサポートデスク活動記録

2018年度に環境・情報科学館(MEIPL)2階に設置した「MEIPLサポートデスク」に、2019年度から新たに「MEIPLメイカースペース」の機能が加わりました。メイカースペースとは、3Dプリンターやレーザーカッターなどの機材を兼ね備え、立体モデルやデジタルコンテンツ、その他様々な創作活動を支援する空間です。本学の学生や教職員であれば、予約なしに無料で自由に「MEIPLメイカースペース」の機材を使用して、誰でも手軽にICTを活用したもののづくりや、さまざまなデータの分析・発信などができます。

2019年度前期には、教育学部数学教育・情報教育コースの「情報科学基礎」(森本尚之講師担当回)の授業と連携し、3Dモデルの公開・共有を行うプラットフォームから、授業の受講生(1年生)が任意のものを選択し、「MEIPLメイカースペース」の3Dプリンターで出力するという試みを行いました。

また、夏休み中のオープンキャンパスや秋のミニ・オープンキャンパスでは、来場した高校生やその保護者等を対象に、VR体験と、ドローン体験のプログラムを実施しました。VR体験プログラムとしては、擬似的に職業体験ができるコンテンツや、プラネタリウムが鑑賞できるコンテンツを選択し、ドローンについては、コントローラーを用いた操縦体験と、プログラミングによるドローン飛行体験のプログラムを提供しました。来場者の中には、時間を忘れてVRの世界に夢中になっている方や、初めてのプログラミング体験に興奮した様子の方がいらっしゃいました。

学習指導要領の改訂により、2020年度には小学校、2021年度には中学校、2022年度には高等学校において、プログラミング教育が必修化されます。プログラミングを用いた活動や、デジタル・ファブリケーション(デジタルデータをもとに創造物を制作すること)は、いまや一部の専門家や愛好者のみに限定されたものではなく、誰でも自由に各々の置かれている日常の文脈に応じて実践できる時代が到来しています。

「MEIPLメイカースペース」は、これまでプログラミングを用いた活動や、デジタル・ファブリケーション等は無縁だった学生や教職員が抱えている心理的・物理的ハードルを取り除き、気軽に最新のテクノロジーと触れ合える機会を今後も継続的に提供していきます。いつでもお気軽にお越しください。

【場所:環境・情報科学館(MEIPL)2階/時間:平日12:00-16:00:Web:<https://msdesk.m.mie-u.ac.jp>】

(MEIPLサポートデスク・メイカースペース担当:和気尚美・森本尚之)



(オープンキャンパスでドローンの操縦体験をする来場者)

イベントの開催報告

学生教育会議で、学生が 本学の教育改善について提案しました！

本学の教育改善をより具体的に行うため、学生から直接、本学の教育に対する意見をいただく機会として、「学生教育会議」を開催しました。10月30日水曜日14:00～16:00 環境・情報科学館3階には、35名の学生と5名の教員、5名の職員の方に参加していただきました。

会議では、山本俊彦教育担当理事から開会の挨拶があり、和気尚美助教の司会進行で、黄文哲講師から「学生調査からみる三重大の教育」の報告がありました。



(山本俊彦教育担当理事による開会挨拶)

その後、前川悠教務補佐員の進行のもと、学生や教職員が7班に分かれてグループディスカッションを行いました。

学生は「三重大の教育は面白い」という仮説に基づき、グループディスカッションと発表を行い、本学に対する教育の面白さ・面白くなさとその改善策の提案をしました。

学生だけでなく教職員も参加し、率直な意見交換を行うことで、特に、普段学生と関わる機会が少ない職員からは、学生との議論が新鮮でやる気につながると語っている方もいます。



(グループ発表の様子)

最後に、荻田副機構長から、閉会の挨拶があり、第1回目の「学生教育会議」が閉幕しました。今後も、テーマや参加者を変えて定期的に開催することで、多くの学生の意見を取り入れていく予定です。

なお、今回の会議で提案された意見は、学生委員も交えた地域人材育成推進会議で議論され、教育改善に結び付けていきます。

今回の「学生教育会議」では、教育改善に直接つながるような「学生の本音を聞き出す仕組み」としての高い効果がうかがえました。(教学IR・教育評価開発部門 前川悠・黄文哲)

三重創生ファンタジスタクラブ× MSFC 移住者呼び込みイベント

10月19日に津市美杉町にある古民家で移住者呼び込みイベント「田舎で楽しい生活体験～美杉で気づきをGetしませんか？～」を開催しました。

本イベントは、三重創生ファンタジスタクラブ(MSFC)が何度も美杉町に足を運び、様々な地域の魅力の掘り起こしを行ってから、情報を整理し、会議を重ねて少しずつ企画立案したものを津市美杉総合支所地域振興課へ提案し、開催されたものです。

津市の空き家バンクやSNSなどを活用して周知し、当日は4名のお客様にご参加いただきました。

当日はあいにく天候に恵まれず、予定していた林業体験はできませんでしたが、なんとか薪割りを行うことができ、美杉町の古民家で、かまどでご飯を炊き、シカ肉入りカレーを参加者全員で作りました。

その後、訪れたお客様は津市職員の方とじっくりと移住相談を行い、かなり興味を持たれている様子でした。

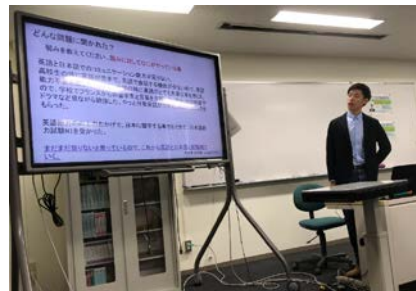
今年度のMSFCの大きなイベントはこれが最後ですが、来年度も多くの新入部員を勧誘し、さらに活動を広げていきます。ご協力とご支援よろしくお願い申し上げます。(地域創発部門(地域創発センター) 東大史・織田拓・鈴木幸子)



(イベント開催の様子)

三重大大学の先輩留学生の ミニ講演会を開きました！

グローバル人材教育開発部門と国際交流センターの共催(企画実施:福岡昌子教授)で、10月21日に、2016年10月～2017年9月まで台湾の大学の交換留学生として三重大大学に在籍していた許佑禎さんによるミニ講演会を開催しました。この講演会は、現在本学に在籍している留学生の方を対象に実施したものです。許さんは現在日産自動車の社員として東京で働いています。留学生活の過ごし方から就職活動の仕方など、ご自身の体験をまじえて話してくださいました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講演会の様子)

三重大学満足度調査から見た教育改善の成果

三重大学は、2019年に創立70周年を迎えました。本学は、「多様な学生を受け入れるための教育制度を構築するとともに、学生の心身の健康を維持・増進させ、意欲的に修学できる学習環境を整備し、学生の個性を重んじた進路指導を実施することを目指す」を教育の基本理念の一つとしています。この目標を実現するため、「教育満足度調査」を毎年実施することで、学生の本学に対する学習環境等の満足度をモニタリングしています。満足度は6段階で表され、「非常に不満」を1点、「不満」を2点、「やや不満」を3点、「やや満足」を4点、「満足」を5点、「非常に満足」を6点とし、平均値を算出しています。今回、2008年度から2018年度までの11年間の学生満足度をカテゴリー別にまとめました。どのような変化があったかを紹介します。



調査項目の詳細は「地域人材教育開発機構の教学IR・教育評価開発部門にて公開しています。
<http://www.dhier.mie-u.ac.jp/about/ir.html>

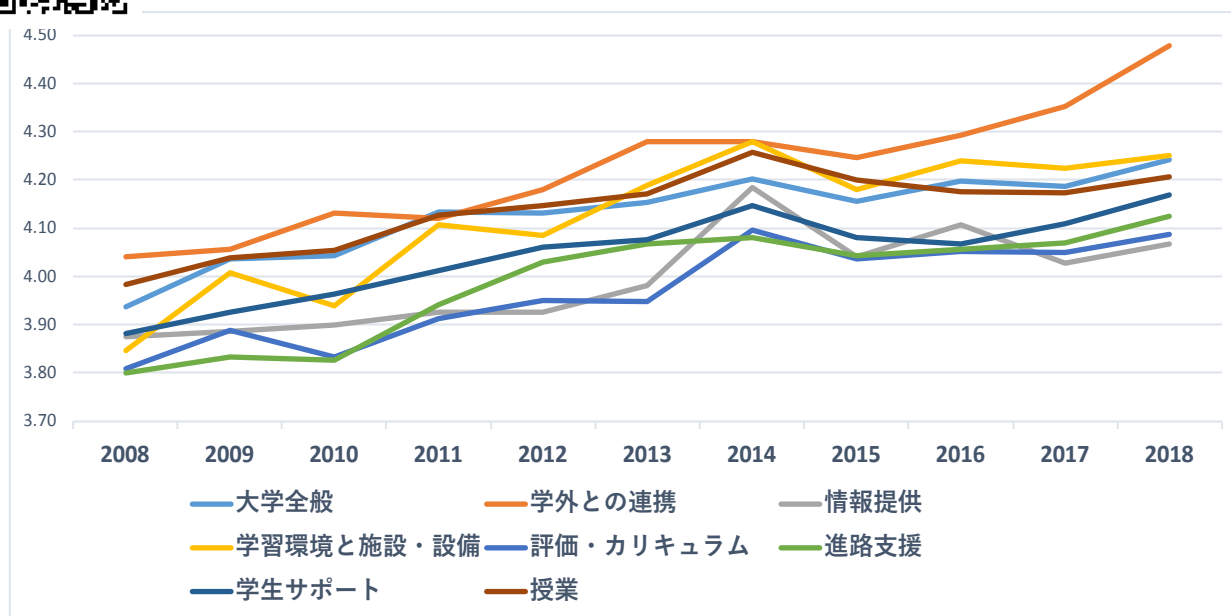


図 「11年間の教育満足度調査からわかる学生満足度の変化(カテゴリー別)」

全体的な傾向として、すべてのカテゴリーの学生満足度は向上しています。また、2018年度の満足度を高い順を見ると、「学外との連携」が4.4点を超えて最も高く、「学習環境・施設・設備」「評価・カリキュラム」「大学全般」「授業」の順になっています。

一方、「進路支援」「学生サポート」「情報提供」は、他の項目に比べて低くなっています。しかし、2008年度と比較すると、3項目とも向上していることが分かります。

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(2018年11月26日中央教育審議会)は、各大学が教育成果や教学に係る取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことの重要性を指摘しています。本学では、10年以上前から「教育満足度調査」を通して、学生満足度や意見を調査してきました。これからも、「教育満足度調査」を続けることで、本学の教育改善につなげていきたいと思ひます。(教学IR・教育評価開発部門 黄文哲・前川悠)

編集後記

機構ニューズレターNo.53をお届けします。本号は、各部門のイベント開催報告および案内、「三重大学満足度調査から見た教育改善の成果」のまとめを中心に構成しています。お忙しい中、ご寄稿、ご協力頂きました皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。(教学IR・教育評価開発部門 黄文哲・前川悠)

NEWS LETTER vol.53 2019年11月 発行

国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL: 059-231-5615 FAX: 059-231-2354
E-MAIL: chiikijinzai@ab.mie-u.ac.jp
<http://www.dhier.mie-u.ac.jp/>